

## 第12回オープンフォーラム 開催のお知らせ

名古屋大学農学国際教育協力研究センター第12回オープンフォーラム「途上国留学生教育の人造り・国造りへの貢献～アフガニスタンの復興に向けて～」が2011年10月6日、7日に名古屋大学野依記念学術交流館において開催されます。同フォーラムでは、留学生教育の開発途上国の開発及び我が国大学の研究・教育活動への意義やアフガニスタン「未来への架け橋・中核人材育成プロジェクト」の開始を念頭に、復興途上にある国に対する留学生教育の意義と課題について議論いたします。皆様奮ってご参加ください。

## 「農学国際協力」の発刊に当たって

農林水産業は人間生活を保障する基幹産業です。その産業の発展を担う農学は、自然科学と社会科学が統合された高度に総合的な学問領域でなければなりません。日本が大半の食料を海外に依存している現状では、日本の農学も国際的な広がりをもって世界の問題に関与していかなければならないことはいうまでもありません。途上国が直面している食料不足、貧困ならびに環境破壊などの問題の解決には、既存の農学に加え、さらに現地に適応した技術体系の開発、農林水産物生産の技術面と経済面の相互調整、自然環境との調和、地域の仕組みや生活の知恵

など地域資源をトータルに分析し利用する視点が必要です。「農学国際協力」は、国際協力の一分野ですから、世界平和を構築するための人道的な見地から活動することはいうまでもありません。しかしそれに加えて農学の基本理念に忠実に、日本をはじめとする国々の国益という見地から、課題に取り組んでいくことも重要です。

農学がこのような視点を考えつつ、世界の現場の問題に取り組み、技術協力を実施していくことはいうまでもありませんが、もっと重要なことは、人材の育成です。残念ながら、現在の日本の農学の現状をみるに、農学を武器に国際協力分野に身を投じようという人材が不足していることは否めません。現状では、日本の農学分野における研究・技術開発では、自然現象の科学的な解析・理解とそれらに基づいた最先端技術が主要な分野であり、これらの基礎的な研究が農学分野の活性を支えているように見えます。このような日本の農学が国際的に展開していくということに対して理解を深め、そのような視点を持った若い世代を育てていくことが重要であると考えます。

「農学国際協力」誌は、このような若い世代を育てていくためのプラットフォームの役割をめざします。農学における最先端研究をいかに国際的に展開させるか、またそれを世界的な問題の解決のためにどう用いていくかを考えます。これによって、最先端研究と国際的な課題の把握が同居しているような人材を育成することができれば、望外の喜びです。加えて農学の研究成果の国際的な展開や、国際協力活動に理解をもった研究者やサポーターを徐々に増やしていきたいと考えています。

このため、「農学国際協力」誌では、農学的視点から世界の実像を理解するための論文や農学研究の国際的展開の可能性を示す論文、先進的研究の成果を世界的な問題の解決のために用いたケースレポートなど意欲的な論文を集めて、みなさまの国際協力活動のお手伝いをしたいと考えています。

(前多敬一郎)

